

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「御家族や地域との絆を大切にします」「入居されている方、おひとりおひとりの気持ちを大切にします」など分かりやすい言葉で理念として表しています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の介護業務時も、理念に基づいた実践で具体的に示すように心掛けています。また、月一回行われるミーティングでも職員全員が理念について共通の理解のもとにサービス提供がされるよう話し合うようにしています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念については入り口に掲示し目に付くようにしてありますが、理解してもらえよう努める取り組みとしては不十分だと思います。	○ 見学や契約などの説明時に理念について話したり、施設案内のパンフレットに分かりやすく載せることによってご家族や地域の方々に理念が浸透すればと思う。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶はしますが、特にこれといって働きかけはしておらず日常的な付き合いは少ないと思います。	○ まずはグループホームがどんな場所か知ってもらうことから始めたいと思う。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の婦人会の方がボランティアとして来て下さったり、夏祭りには地域の独居の高齢者を招待したりしていますが、地域活動の参加の機会が少なく不十分だと思います。	○ 招待するだけでなく地元のお祭りに参加するなどして地域の一員としてお互いに行き来が出来るように努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	地域の状況を把握するとともに地域の中でグループホームの役割を生かした活動が出来ないか検討する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	職員に自分の働いている事業所や自分の働きぶりを見直すこと、外部からの意見を取り入れることの重要性を理解してもらい、その上で意識を持って介護サービスを提供してもらいたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	まずは定期的に会議を行い、意見を交換する場を設けたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	グループホームからの連絡を密にすることにより、現状を理解してもらうなどして、いざというときに助け合える環境を整えていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	勉強会を実施するなどして地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を設け、それらの制度の理解を管理者、職員ともに深め、制度利用時には支援できるよう努める。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	職員同士でお互いに気を付け合い意識を高め今後も防止に努めたい。また、虐待、身体拘束が見過ごされないような風通しのいい環境を作りたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みや契約時に説明を行い、理解を得るように心掛けています。また、入居者がグループホームで生活する上での疑問や希望、心配なことなどを聞くようにし、介護に反映するようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	信頼関係を作ることにより、良いことも悪いことも言える環境作りを心掛け、出来るだけそれらを反映させるようにしています。ただ、機会を設けると言うほど大袈裟なものではないので物静かな入居者の気持ちや考えをくみ取る事が不十分なこともあるかもしれません。	○ 誰もが考えや気持ちを表現することが出来るよう、入居者によっては意図的に機会を作ることによって運営に反映させていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	郵便や電話、面会時に生活の様子や健康状態については報告するようにしています。また、金銭管理も月一回郵送にて報告しています。	○ 今後は、個々に合わせた報告や、いかに生き生きとした生活の様子を理解してもらえるような報告をするかが課題。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し意見、不満、苦情があった場合には管理者が対応し、反映させるよう心掛けていますが、家族等の意見、不満、苦情を完全にくみ取れているかは疑問です。	○ 信頼関係を深めるだけでなく、こちら側から何か意見がないか積極的に聞いていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場に関していえばミーティングなどのときにお互いの意見や提案をする機会を設け、みんなで話し合いの上、それらを反映するようにしています。	○
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や病院受診時など人手が必要なときには職員を多めに確保するようにしています。また、事前に職員が多めに必要なことが分かっている場合は配慮して勤務表を作成するようにしています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最少限にするよう努めているので異動による影響は少ないです。もし、異動したとしても3つのユニットが繋がっている造りなので顔を出すなどしてダメージに配慮することが可能だと思います。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加することもあります。職員のレベルやそのときの必要性に応じて月に一回勉強会をするようにしています。ただ、管理者がその時の状況で判断して勉強会の内容を決めているので計画は立てていません。	○	外部での研修の参加や、勉強会で継続的な内容のものについては掘り下げて理解してもらえるよう計画を立て、現場に生かせるような育成の仕方を検討していきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	説明会などで顔を合わせる機会がありますが、交流する機会はあまりありません。	○	地域の同業者との交流する機会、勉強会などがあれば積極的に参加していきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	取組んでいますが不十分です。	○	意見や要望を伝えていくようにしたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況の把握はしていると思いますが、努力や実績は把握しているかは不明です。	○	現在の状況を報告していくことにより把握してもらえるようにしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に調査に行き、会って話したり本人の生活歴や性格、嗜好などを情報収集し受け止めるよう努力はしていますが家族と話すことが多く不十分だと思います。	○ 本人に焦点を当て、できるだけ分かることは本人の口から聞くことが出来るよう心掛けていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みや見学、契約のときに面談をして状況や不安、希望を聞くようにしています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主訴を傾聴し、それを踏まえてまずはどんな支援が必要か考え、対応するようにしています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者によっては見学に来たり、しばらくの間ご家族と通っていたケースがあり、本人に合わせて馴染めるよう対応していくようにしています。また面会も最初にご家族に頻繁にきてもらうようお願いしています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事や生活を一緒にして職員任せにせず、出来ることは手伝ってもらい、共に生活することを重ねることによって一人の人間として支え、助け合っているような関係を心掛けています。家事や年中行事で分からないことは入居者に聞いて教えてもらっています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>病院受診をお願いしたり、気持ちを分かち合うようにしてご家族を巻き込んで入居者の生活を支えるようにしていますが、ご家族によっては任せているという意識が強く難しい場合もあります。</p>	<p>○</p> <p>一緒に入居者の生活を支えていくという意識を持ってもらえるよう、ご家族の負担に配慮しながら働きかけていきたい。</p>
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人や家族からお互いの話を聞いたり、良い関係が維持できるよう外出の支援などをしていきますが、向上できるような支援については難しく、現状維持のままとなってしまっています。</p>	<p>○</p> <p>現状の関係に満足せず、ご家族と入居者のよりよい関係作りの橋渡しになればと思う。</p>
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居の際には身の回りの物、家具、食器など馴染みのものを持ってきていただくようお願いしています。面会も自由に來ていただくよう、外泊、外出についても自由に出来るよう働きかけています。</p>	
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>食事や外出の車の席は入居者同士の関係を把握し配慮しています。また、洗濯物をたたむ時など一緒に家事をする場面が出来るようにしています。食器を運ぶときは自分で運べない人の分をすすんで他の人が運んでくれたりと入居者同士が関わり合っています。入居者同士でのコミュニケーションが難しい場合は職員が間に入って支援するようにしています。</p>	
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>終了しても継続的な関わりを必要とする入居者があまりいなかったため取り組みは不十分です。</p>	<p>○</p> <p>必要があれば支援していきたいと思う。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から把握するよう努めています。困難な場合は本人の行動や発言などを踏まえて本人の立場になって考えるようにしています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込みの受付や契約時にサービス利用も含めた今までの生活を把握した上で受け入れるようにしています。また、入居時に生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境などを用紙に記入していただき把握するようにしています。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録し、日常的に職員同士で報告しあうことによって把握しています。また、ミーティングでも報告し合い、現状を共有するようにしています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見と本人の状況がみ合わず、うまく反映させた介護計画が立てられないことがあります。	○ 本人、家族とよく話し合いすり合わせをし、意見をうまく取り入れた介護計画を作成するようにしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間は一定であることが多く、変化が生じ、新たな計画を立てる際に時間がかかることがあります。	○ 新たな計画を建てる際は、早めに介護計画を作成したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はしているが介護計画の見直しに生かしきれていないです。	○	記録も介護計画の資料であることを意識し、参考にしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊や外出、面会などは要望に応じて柔軟に対応しています。ただ時間がなく徘徊に付き合うといった多機能性を活かした対応が少ないと思います。	○	時間をいかに作るか、他にもどのようなことで対応可能か検討していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアは受け入れています但協力する機会が少なく不十分です。	○	協力してもらえるよう日頃から繋がりを作るよう努めたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーやサービス事業者と話をすることや、他のサービスを利用する機会がなく不十分です。	○	他のサービスの利用の意向、必要性がないか検討し、あれば相談できるような関係を地域のケアマネジャーやサービス事業者と作れば良いと思う。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの関わりが少なく不十分です。	○	地域包括支援センターと協働できるよう定期的に交流する時間を作るようにしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	地域の保険師との連携や日常的に入居者の様子を把握してもらえる看護師の採用を検討する。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	早めにある程度の方針を共有できるようにしたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後は、かかりつけ医との連携が図れるよう働きかけをしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>今後機会があった場合、情報提供、説明を時間をかけて行っていくようにしたい。または他に何か出来ることがないか検討する。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<p>希望があった場合外出を支援できるようにしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○	業務の流れの影響を受けないように入浴時の人員を確保する方法を検討したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○	生活歴を生かした役割を考える。入居者一人ひとりがどのようなことが気晴らしになるのか考える。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常にお金を持っている入居者はあまりいません。外出をする際や夏祭りのときにはお小遣いを渡して買い物の支援をするようにしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外に散歩に行ったり、病院受診など外出の機会があります。みんなで一緒に出掛けることが多いです。	○	一人ひとりその日の希望に添って外出できるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月一回外出行事がありそのときはユニットの利用者全員で出掛けることが多いです。ご家族とも外出を出来るだけしてもらえるようにしています。	○	今後は個別に対応可能に出来るよう検討していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月末の請求書の送付時に希望を聞いて手紙を書いてもらい送るようにしています。電話も希望があれば支援しています。最近では声を掛けても面倒だからと断られてしまうことが多いです。	○	面倒がらずに手紙や電話のやり取りをすることにより家族との繋がりを保てるように働きかけた。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、知人、友人等が訪問して下さることは多いです。面会時間は決めておらず、お茶を出してゆっくり話せるように心掛けています。居室で一緒に話をしながら裁縫したり、近くに散歩したりと自由に過ごして頂いています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会を行うとともに日常的に話したり、ポスターを掲示するようにし、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが全ての職員が必ずしも完全に理解しているというのは難しいです。	○	身体拘束について知識を深め、さらに意識を持って介護に取り組んでいけるよう、勉強会などでフォローしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>今後も職員が安易に鍵をかけるのではなく、声かけや目配りでケアしていくように日常的に意識づけしていきたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>リスクマネジメントなどの勉強会を行い、知識を身につけるとともに入居者一人ひとりの状態を把握し、その上でどのような事故が考えられるか、どうすれば防げるかを考えていきたい。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>応急手当や初期対応の方法を定期的を確認するようにしたい。知識だけでなく実践に重きを置いた訓練を行ってほしい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>日頃より地域の人々との繋がりを作っておくことが重要だと思う。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>入居者に出来るだけその人らしく生活してもらうことを支援する際に起こるメリット、デメリットを話し、ご家族の希望とすり合わせてどう対応するか決め、理解、協力してもらえようとしています。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>入居者についての生活上の気づきや変化は記録し、共有するようにしていますが口頭で申し送られることも多く、共有していない職員がいたり、記録していないときは漏れが発生してしまうことがあります。</p>	<p>○</p> <p>記録の徹底と口頭の場合も必ず記録をすることを習慣づけ、漏れなく職員が情報を共有できるようにしたい。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬の管理については、管理者任せになっており、用法、用量、副作用についての理解は乏しいと思います。</p>	<p>○</p> <p>服薬支援や用量等の理解について職員に話し、服薬による症状の変化の確認を確実に出来るようにしたい。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排泄表に記入し、排便のサイクルは把握するようにしています。食事にヨーグルトを出したり、散歩や家事で日常的に体を動かすようにしています。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>起床時と就寝時に歯を磨いたり、入れ歯を洗えるよう声かけや見守り、介助を行い支援しています。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量・水分量のチェック表を記入し、食事量・水分量の把握をし、確保できているか確認しています。一人ひとりの状態にも配慮しています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症のマニュアルがあります。感染症が疑われる場合にはすぐに病院受診し、発生した場合は対応方法を申し送るようにしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は近くのスーパーから毎日購入しています。夜間に調理器具は消毒し、食器も食洗機で熱を加えて乾燥させ、湿気を帯びたままにしないようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場へ入る出入り口は小さな段差はあるが門はないです。誰でも入れるようになっていますが玄関周りに工夫がなく少し寂しいです。	○	季節の花を植えるなどして親しみやすい雰囲気を作りたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、施設的な感じがするのは否めません。リビングは写真やカレンダーを貼り、生活観を出すように心掛けています。浴室には「ゆ」ののれんを掛けたりしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3～4人くらい座れるソファがあり団子のように仲良く並んで座っていることが多いです。一人になりたいときは居室や玄関の応接セット、外のベンチにすることが多いです。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	基本的に荷物は家具も含めて全て持ち込みで、出 来るだけ使い慣れたものを持ってきてもらうよう にしています。配置も家族や本人と相談していま す。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう 換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気扇は常時回すようにして夜間に換気を行うよ うにしています。温度調整も数字だけに頼らず入 居者の体感で調節するようにしています。個人差 は衣類で調節してもらうこともあります。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物についてはいろいろな場所に手すりが付いて おり、段差もなく安全になっていると思いき ますがもう少し工夫する余地があるかもしれませ ん。	○	どこを工夫すればより安全に自立した生活を送 ることが出来るか検討する。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室の間違いを防ぐ為に入り口のコルクボードに 自分の写真や作品が飾ってあります。時計やカレ ンダーを置いて今がいつで、何時であるか分かる ようにしています。分からない場合は分かる人が 教えてくれます。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	周りが貯水槽や栗林などでベランダもなく活用で きる空間が少ないです。玄関前のベンチはお茶を 飲んだり、たそがれたり、夕涼みしたり、月見を したりと活用されています。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

住み慣れた地域でご家族とつながりを持ちながら、その人らしい生活が実現できるよう心掛けています。
 家庭的な雰囲気の中、自分で出来ることは自分で行い、入居者同士で助け合いながら生活を送り、足りないことは職員がフォローするようにしています。